

記の9種が琉球新産であり、その中に新種1、日本新産3種を含む。植物地理学的に見れば、*Riccia huebeneriana* は旧北区系、*Cephalozziella microphylla* は東亜区系に属するが、*Jackiella javanica* と *Plectocolea tetragona* の2種は顯著な熱帯要素であり、*Cololejeunea schwabei* 及び *Rectolejeunea obliqua* の2種は台湾との地理的親近性を示すいわゆる琉球・台湾要素であり、また *Cephalozziella acanthophylla* と *Cololejeunea uchimae* の2種及び恐らく *Phaeoceros miyakeanus* も日本南西部に分布する亜熱帯性のものであつて、琉球苔類フローラの特色を明かにうかがうことが出来る。末尾ながら内間氏に謝意を表し、また服部新佐博士に *Cololejeunea schwabei* 及び *Rectolejeunea obliqua* の2種について verify していただいたので厚くお礼申し上げる次第である。

○ オオバナボントクタデ (水島正美) *Masami MIZUSHIMA: A new form of Persicaria pubescens Hara.*

上州甘樂 (カンラ) 郡の妙義山には時々変った種類が出て来るが、今回里見哲夫氏の採集品中に大花のボントクタデがあった。常形は瘦果が 2.5-3.5 mm 長であるが、妙義産の一形では 4.5 mm ある。しかし他の形質は明らかにボントクタデの変化範囲内にあると思えるので、これを一極端形と見なし、オオバナボントクタデと新称して次の如く記載する。なおオオバナとしたのは、瘦果が美しい宿存萼に全く包まれているのを“花”と見立ててのことである。

Persicaria pubescens Hara var. acuminata Hara
forma **macrantha** Mizushima, f. nov.

Sepalis et acheniis 4.5 mm longis a plantis vulgaribus cum fructibus 2.5-3.5 mm longis differt.

Hab.: Mt. Myogi, Kanra-gun, Gunma Pref. (Oct. 13, 1957, Tetsuo Satomi)—holotype in TI.

○ ミズタマソウの一品種 (桧山庫三) *Kōzō HIYAMA: A new form of Circaeaa mollis Sieb. et Zucc.*

ミズタマソウ (*Circaeaa mollis* Sieb. et Zucc.) の葉には長さ 0.2 mm 未満の短かな少し曲った毛があるのが常であるが、稀に、この短毛に代つて長い毛のあるものがある。この毛は長さ 0.5-0.7 mm でほぼ直生するから一見してミズタマソウの常品と区別ができる、葉の裏面にも同様な毛が認められる。その他は常のミズタマソウと変わらない。この長毛品の産地は山地に限られているようで、私はこれを 1933 年 8 月 26 日に甲州三ツ峠で採集したが、信州蓼科山でも 1953 年 8 月 8 日に武井尚氏が採集されている。これをミヤマミズタマソウ (f. *montana* Hiyama) と称する。

Circaeaa mollis Sieb. et Zucc.
forma **montana** Hiyama, nov. f.

Folia utrinque pilis rectis 0.5-0.7 mm longis pilosa. Cetera ut in typo.—Nom. Jap. Miyama-mizutamasō.

Hab. Hondo: Mt. Mitsutōge, Prov. Kai (Hiyama—Aug., 1933—type in herb. Nation. Sci. Mus. Tokyo); Mt. Tateshina, Prov. Shinano (H. Takei—Aug., 1953).